

鬼火 (1963)

LE FEU FOLLET
THE FIRE WITHIN [米]

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 108分
初公開日 1977/08/06
公開情報 フランス映画社

【キャッチコピー】

ヌーヴェル・ヴァーグの幻の名作 遂に日本初公開！
失われた陶酔の日々に別れを告げ 果しない孤独の淵へ 散ったアランー

【解説】

この映画で、主演のM・ロネが体現する虚無を親しく思うティーンエイジャーがいたら、少し時期尚早だと言おう。ただ、彼の歳に近づけば、なんらネガティブな理由なく（アル中になって療養所から出たばかりという負の要素も抱えてはいるが）、何もなすべきことがない（見つからない）という不安から死にゆこうとするブルジョワ青年の彼を、あながち贅沢だと否定もできないだろう。人間、30にもなれば人生が見えてきてしまう。そんな苦渋が、この、自殺志願者の最後の二日間を痛々しくスケッチする作品には溢れていた。ラスト、拳銃と戯れながら、残りの人生の可能性を模索するかのように、ぼんやり思案にくれる青年。しかし、解答はもう出ているのだ……。彼の魂の彷徨にぴったり寄り添うように流れるエリック・サティの『ジムノペディ』が、ささやかに、しかし、雄弁にその心情を語っていた。

【クレジット】

監督	ルイ・マル	Louis Malle
原作	ドリュ・ラ・ロシェル	Drieu La Rochelle
脚本	ルイ・マル	Louis Malle
撮影	ギスラン・クロケ	Ghislain Cloquet
音楽	エリック・サティ	Erik Satie
出演	モーリス・ロネ	Maurice Ronet
	ベルナール・ノエル	Bernard Noel
	ジャンヌ・モロー	Jeanne Moreau
	アレクサンドラ・スチュワルト	Alexandra Stewart